草加市倫理法人会
モーニングセミナー報告(5月)

（会場）埼玉屋旅館
草加市高砂1-10-13　048-922-4141

5月1日(木)第849回
講師：林　眞佐雄　氏
八潮市倫理法人会　幹事
テーマ：「成功者と同じ心になるには！」

昭和二十七年長野県生まれ。高校の建築科卒業後、埼玉県川口市のゼネコンに入社。二十六歳で結婚し、二児を授かるが妻が心の病に侵され、支えていた自分もうつ病になり十四年闘病する。平成七年に建築コンサルタントとして独立するが繰り返すうつ病の為苦しむ。そんな中「心の学校」と出会い、同じ悩みを持った方々の力になれればと入社。そこで「苦難は役割、天命に繋がっている」事を知る。また「正しさで人を責めずに愛こそ全て通じる」事を確信し実践。成功した人は皆心が透明である。現在「生きた方教室」を起ち上げ、自分自身が体験、実践し、幸せになった事を皆さんに伝える仕事をしている。

相川　哲也　記

5月8日(木)第850回
講師：野村　圓子　氏
埼玉県倫理法人会　MS委員長
テーマ：「感謝の実践」

長崎県対馬で生れる。生後間もなく小児麻痺で歩行障害となり、友達から「チンバ、チンバ」といじめられ、親からも指摘され心を閉ざす。中学卒業と同時に集団就職で家を出る。「私は足が悪いから」と卑屈になって人生を送っていた。倫理に触れて薄皮が剥がれ、清い心になっていく事に気づく。この頃から両親に感謝するようになり、母に毎日手紙を書いた。ある日母から返事が来た。学校に行っていない母が汚い字だが生涯初めて書いてくれた手紙に感動した。私の宝物として今でも大事に持っている。倫理指導で「夫が寂しがっている」と指摘され、ある日、夫と握手してみた。夫の荒れた手に「私を支えるために頑張ってくれていたんだ」と感謝し、涙がでた。今でも毎日握手を欠かさない。気づきによって人は成長する。倫理によっていろいろなことに気づかされる事に感謝を忘れない。

高橋　茂行　記

5月15日(木)第851回
講師：佐々木　照子　氏
浦安市倫理法人会　会長
テーマ：「倫理を学んで・・・」

浦安市生まれ。恵まれた環境で育ち祖母の教えで「鯛のしっぽより鰯の頭になれ」が指針となる。日清製粉に就職夫と出会い結婚、三人の子に恵まれる。昭和五十九年、夫が交通事故に遭い仕事を始める事になる。安田生命の研修生となり、二年間で資格を取得。四十四歳で不動産業へ転向し、PTAの活動時代の方々からの不動産紹介でトップセールスとなり、宅建も朝勉強の効果で一回で合格。祖母の言葉のように「鰯の頭」となる事を決心、四十七歳で独立。バブルで独立後も順調にきたが、リーマンショックで不調。そんな時柳内光子初代会長のオーラを受け倫理に入会。夫が事故後、多額の借金、離婚も考えたが夫婦対鏡で結婚生活を送り、晩年は良い関係になった。夫は昨年十月亡くなった。会長職を受けた後の夫の癌発覚。辞職も考えたが続投。昨年MSは金沢を抑えて日本一になった。

太田　功　記

5月22日(木)第851回
講師：小川　利八　氏
草加市倫理法人会　会員
テーマ：「解釈の違い」

妻が膠原病を患い、床に臥し、三度も危篤状態に陥り、夫婦生活も儘ならず離婚も検討した時期もありました。また、娘も定期的に人工透析が必要な体です。当時は全ての不幸が自分一人に襲ってきたような心境でした。そんな中自分より熱い思いの人間はいないと大いなる勘違いから市議会議員選に立候補。人のために尽くし、働くことで、不幸から逃れられるのではないかという思いもありました。おかげさまで当選させていただきました。今はこのような過去と向き合い、自分や家族も含め草加で暮らす皆様の幸福を創り出し現在と未来のバランスを大切に考え決断することに全力で取り組んでいます。

住田　浩一　記

5月29日(木)第852回
講師：大園　義友
東京都杉並区東倫理法人会　相談役
テーマ：「自分経営の心得」

高校に入学する時、鹿児島県甑島から上京。都会生活に慣れず、長い間劣等感を持ち続けていた。その後、建設機械のリース会社を起ち上げ社員30名程の会社となった。梅雨時や雨の日は、社員も機械も仕事がなくなる。いつも空を見上げ愚痴や恨み言ばかり。人の心は環境によってコロコロ変わる。ある長雨の時「大園さん、雨が降って良いね」と声掛けられた。「冗談じゃない、商売上がったりだ」しかし「機械も時には休ませなさい。雨のお陰で、空気も花も綺麗になるよ」と諭され今まで社員や機械を奴隷のように酷使していたと気づいた。人生はやり直しの連続である。会社経営も常にやり直し、常にチャンスを生かすもの。身の回り現象は自分の心の表れ。心を洗うつもりで、物事を全て良いと捉える事が大事ではないだろうか。

坪井　明　記

草加市倫理法人会　事務局　お問合せ　048－998－8868